

# 山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年12月14日)  
地域部 山岳安全対策課

## 1 山岳遭難発生状況

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	354	50	4	170	164	388
令和6年	314	49	3	141	148	341
前年同期比	40	1	1	29	16	47

## 2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北ア	槍穂高	68	19.2%	10	0	34	30	74
	後立山	87	24.6%	9	0	38	56	103
	その他	56	15.8%	1	0	36	25	62
計	211	59.6%	20	0	108	111	239	
中央アルプス	24	6.8%	6	1	10	9	26	
南アルプス	12	3.4%	0	2	8	2	12	
八ヶ岳連峰	38	10.7%	5	0	21	13	39	
その他の山岳	69	19.5%	19	1	23	29	72	
計	354		50	4	170	164	388	

## 3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	94	26.6%	28	0	68	0	96
転倒	89	25.1%	1	0	88	0	89
病気	28	7.9%	8	0	0	20	28
道迷い	33	9.3%	0	0	0	50	50
落石	7	2.0%	0	0	7	0	7
雪崩	2	0.6%	1	0	1	1	3
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	58	16.4%	2	0	0	60	62
不明・他	43	12.1%	10	4	6	33	53
計	354		50	4	170	164	388

## 4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人) 比率	女性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	7	7	46	0	0	1	0	1	18	8	64
20代	1	0	4	18	23		0	0	1	5	6		29	
30代	4	1	4	7	16	17.2%	0	0	3	8	11	15.0%	27	16.5%
40代	5	1	13	15	34	86	1	0	16	3	20	48	54	134
50代	7	0	21	24	52	32.1%	1	0	21	6	28	40.0%	80	34.5%
60代	11	1	31	26	69	136	0	0	22	8	30	54	99	190
70以上	20	1	18	28	67	50.7%	0	0	15	9	24	45.0%	91	49.0%
計	48	4	91	125	268		2	0	79	39	120		388	
比率	69.1%						30.9%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生 (12/8~12/14)

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
	発生なし					

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、山岳遭難の発生はありませんでした。

冬山登山は、一年で最も過酷なシーズンで、その厳しい環境で安全な登山を行うには、入念な事前準備が欠かせません。稜線では、ひとたび天候が崩れると強烈な雪風に見舞われ、視界不良の状態が数日間続くこともあります。状況によっては行動を中断し、停滞を余儀なくされる場合が想定されるため、十分な予備の燃料や食料等を必ず携行しましょう。

また、冬山は夏山以上に体力が求められます。特に深い雪を進むラッセルは、雪質や積雪量、地形の影響を受け、想像以上に体力を消耗します。重い装備を背負い、長時間の行動に耐えられるよう、日頃から体力・筋力トレーニングに励みましょう。

冬山は事前の準備の差がそのまま安全と生死を分けることを念頭に置き、冬山を楽しみましょう。